晩近ニ於ケル結核病治療ノ進歩

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38364

十全會雜誌《第六拾參號》

原著及實驗

●晩近ニ於ケル結核病治療ノ進歩

東京醫科大學生理學教室
ドクトル 竹中繁次郎

肺癆 Phthisis pulmonum ハ結核病中尤モ多數ヲ占ムルヿハ各國ヲ通シテノ通論デアル、我國ニ於テモ年々統計局ヨリ刊行セラル、入口動態表ハ之ヲ証シテ余リアルノデアル、故ニ諸大家ハ種々ノ方面カラ研究シテ早ク全治セシメヤウト企テ、居ルニモ係ハラズ、尙易ク全治セナイハ治療學ノ未タ進歩セナイ譯ナノデ、吾々醫師ノ責任ノアル處デアル、近クハ梅毒治療上エールリヒ氏 Ehrlich ノ六百六號ハ出來テ斯界ノ進歩ヲ見タ如ク結核ノ治療モ之レハ同シク早ク全癒セシムルヲ得ハ人道ノ爲メニ稗益スル、實ニ偉大ト云ハヲバナラヌ、余等ハ此結核ノ治療ニ對シテエールリヒ氏ハ更ニ六百七號ヲ豫期セル勇氣ヲ以テ、汲々勉メタイモノト思フ。

今治療ノ方法ヲ述ブル前ニ一言其發生ヲ論シテ置カウ、抑モ結核病ノ發生ニハ古來ノ學者ハ二ツノ動因 Komponent ヲ擧ゲテ居ル、一ハ發病体デ他ハ体質デアルガ、近來更ニ一ヲ加ヘテ三ツトスル樣ニナツタ、即チ機會 Gelegenheit 之レデアル、發病体ト云フノハ所謂古弗 R. Koch 氏ノ杆狀菌デ、吾々ハ通例結核菌ト云ツテ居ル、本菌モ西曆千八百九十一年倫敦結核會議以來矢張リ古弗氏ノ提議ニ倣ヒ、牛種 Typus bovius 人種ト Typus humanus トニ區別シテ居ル、其后ノ研究モ益々此事實ヲ是認スル樣ニナツタ、斯ク發病体ハ古弗氏ノ力ニヨリテ今日ノ進歩ヲ見ルニ至ツタガ、他方面ニハ体質ノ研究モ亦諸學者ニヨツテ研究サレテアル、就中有名ナノハ瑞西チユエリヒ大學ノ病理家ネゲリー Nageli デ、爲メニ、年齡等ノ關係ヲ委シク知ルニ至ツタ、機會ノ必要ナヿハ或ル職業ニ限リ肺結核ガ多イヿガ社會ノ狀態文明ノ如何等ニヨツテ同シク罹患ノ多憂ヲ見ルナドニ証明スルノデ例令ハ結婚ノ媒介者ノ樣ナ者デアル、事實機會ナルモノハ時トシテ体質ノ方ニ近イ作用ヲナスヿモアレハ菌体ニ影響スルガ如キヿモアル、彼ノ有名ナブレーメル氏 Brehmer 等ハ其主張者ノ一人トセネバナラヌ。以上ノ發病動因ハ相互親密ノ關係アル者デ何レモ等閑ニ附スヘカラザルノデアルガ、其間ニ學者各々輕重ヲ斟酌シ、一ハ甲ヲ推セハ他ハ乙ヲ貧スルノ局、遂ニ城廓ヲ築イテ相下ラナイ樣ニナツタ、要スルニ其異同ハ自己ノ學問ノ立場カラ茲ニ至ツタ者デ、古弗氏等ノ黴菌學者ハ主ニ動因ヲ菌体ニ求メ、病理學者ハ解剖上ノ研究立場カラ体質説ニ傾キ、臨床家ハ之レ亦日常ノ實驗ニ基イテ機會ノ如何ヲ考慮スルニ至ツタ次第デアル、然シ今日ノ研究進歩ヲ更ニ目擊スレハ如斯キ三者ノ動因ハ互ニ相近似シテ來ル樣ニナツタト思ハル、ト云フノハ黴菌學者ハ菌ノ形態ヲ離レテ其性質ニ追究シ、血清學免疫學ノ範圍ニ究入シテ以來、病理家モ臨床家モ共ニ相提携シテ体質説ニ一方面ヲ開イタカラデアル、元ヨリ上述三發病動因ノ必要ハ理論上動カスヘカラザル次第デ、何レノ一方ヲ欠クルモ結核病ヲ起スニ足ラナイ者ト信セラル、故ニ結核病ヲ社會的ニ撲滅セントスル人士モ、個人的ニ

治療セントスル醫師モ同シク此三動因ノ一ツ若クハ數個ノ除去ヲ要スル次第デアル、之レ即チ結核治療法ノ骨髓デアロウ。

今日ノ治療ハ果シテ上述ノ理論ニ適セルカ、然リ、矢張リ上述ノ範圍ヲ逍遙シテ居ルノミデアル、我々ノ日常試ミツヽアル衛生食飼療法ハ之レ又タ主ニ機會説ニヨツテ胎胚シタモノデ吾人ノ思想ハ機會サヘ除去セハ治療ノ効果ヲ得ル者ト信スルカラデアル。

衛生食飼療法 Hygenisch-diätetiche Therapie トハ如何ナルモノデアルカ、平易ニ申セバ『吾人生活狀態ノ正規ヲ計ル方法』デアル、一方ニ一切感染ノ機會ヲ避ケ、他方ニハ体質ノ對黴抗抵ヲ高ムルニ緊要ナル機會ヲ與フル方法デ、主眼ハ『体重增加』ニ外ナラヌ、其方法ノ委シイヿハ各教科書ニ讓ルガ、唯茲ニ其要々ナル概畧ヲ申上ゲマス。

元來『能ク喰テツ能ク運動セヨ』トハ肺癆ニ對スル從來ノ攝生法デアルガ、衛生食餌療法モ此言ヲ玩味咀嚼シタ方法ニ外ナラヌ、如何ニセハ多ク喰フヲ得ルデアローカ、先ツ攝食ノ時間ヲ定ムル必要ガアル、食間少ナクモ三時間ハ飲食物ノ何レニ對シテモ禁忌スルノデ、咽頭ガ乾イタトテ水湯等ハ勿論藥品トテモ飲ンデハナラナイ、若シ其間ニ斯ル飲食物ヲ攝ルト、更ニ胃ニ刺戟ヲ與ヘ胃ヲ勞セシムル譯デ、胃弱ニ掛ツテ居ル本病患者臨床上多ク認ムルハ勿論其他ノ患者デモ忍チニシテ食物ヲ食スルヿノ出來ナイ樣ニナル、故ニ食間三時間ハ何物モ飲ミ喰ハナイ樣ニセヲバナラヌ、食物ハ混合物ヲ賞用スルノデ寧ロ肉食ノ多キヲ望ムノデアル、余ハ常ニ用ヒツヽアル食事表ハ次ノ如キ者デ、

第一朝食六時　米飯數杯（嫌ト思フテモ一杯位余分ヲ與フ）鷄卵二個、香物隨意、葡萄酒若クハ日本酒一杯、

第二朝食九時　牛乳一合乃至二合、菓子數個、卵一個、

中食十二時乃至一時　米飯數杯（余計ニ與フ）、肉（十五匁位ヲ一皿トス）菜二皿（例ヿ前ト同シ）、（例ハ刺身ト汁若クハ煮物）、酒一杯、

間食午後四時　牛乳一合乃至二合、卵一個、菓子類、

晩食午後七時　米飯數杯（余計ニ與フ）、肉菜一皿、酒一杯。（例ヿ前ト同シ）

夜食（時トシテ午後十時頃ニ空腹ヲ起セハ食ス）牛乳一合乃至二合、卵一個。

以上ノ表ハ如何ニシテ作製シタカト云ヘハ唯歐洲各「サナトリユム」ニ用ヒラルヽ食事表ニ付キ斟酌シタモノデ、余ノ多年ノ經驗ニ徵スレバ日本人ニハ概シテ適シテ居ル樣ニ思ハルヽ、兎ニ角、我國ニ於テハ此種ノ一定セル食事表ガナイカラ之ニヨリテ他日更ニ理論的實地的食事表ヲ作ルヲ得ハ余ノ頗ル滿足スル所デアル。

茲ニ注意スヘキハ運動ノ一事デアル、古來ハ此運動ハ肺癆治療ニ於テ緊要ナル要因ダト思ツテ居タガ、近來ノ研究ニヨレハ余リ必要デナイノミカ、反テ有害ナル場合ガアルト信シラレテ居ル、ト云フノハ運動ハ凡テ体内成分ノ分解ニヨル結果デアルカラ、運動ノ凡テハ体ヲ消耗スル者ト見做サヲハナラヌカラ、縱令多量ニ攝食スル場合デモ、運動劇シケレハ其功ヲ奏スル實ニ難イノデ、殊ニ体重ノ減少セントスル場合等ニハ大ノ禁物デ、此際靜臥ノ必要ヲ認ムルコトトナル、此点ヨリ見レハ前ニ揭ゲタル『能ク喰ツテ能ク運動セヨ』ノ格言ハ大ニ考慮ヲ要スル次第デ、近來ノ學理ノ示ス所ニ習ヒハ寧ロ『能ク喰ツテ能ク靜メヨ』ト云ハヲハナラヌ、然シ、臥テ多喰スルヿハ果シテ出來得ル者デアローカ、之ヲ實行スルニハ他ノ條件ヲ必要トスル。即チ空氣好良、氣候ノ如何、精神ノ慰安、冷水應用、衣住ノ關係、体操術等ハ其主ナ者デアル。

空氣ノ好良ナル森林中ニ横臥セシメテ治療スル方法ハ主ニ深林相連レル米國ノ天地ニ行ハル、方法デ開放所置若クハ横臥所置 Freiluftkur oder Liegekur トナリテ呈ハル、ノデアル、

氣候ノ關係ニ付テハ日本ニ於テハ主ニ須磨明石ノ溫カナ海岸ヲ賞揚スルモ獨乙ニ於テハ山療法ハ目下ノ呼物デアル、山間療法ノ開祖ハ彼ノ有名ナ

プレーメル氏 Brehmer デ、氏ハゲルベルスドルフ村 Gerbersdorf ニ初メ

テ「サナトリユム」ヲ開キテヨリ、目下三百有余ノ多數ニ上ルニ至ツタ、併シ之等ノ「サナトリユム」ハ總テ中高山デ、最近ニ至ツテダボ―Davos村ノ治療所ガ高山治療ノ効果ヲ示シテヨリ、更ニ高山治療ノ大勢トナツテ來タ、元來氣候ノ關係カラ申セハ治療ヲ低地、山間、高山ノ三種トスル者デ、海拔三百メートル以下ハ低地治療、三百メートル以上八百メートル迄ハ山間療法、八百メートル以上千五百メートルニ至ル迄ヲ高山治療ト云ツテ居マス、茲ニ一言スヘキハ近時結核治療ニハ氣候ノ變動カ劇シイト困ルガ寒冷其者ヲ決シテ嫌ハナイ、反テ寒氣ハ咳痰ノ功力ヲ來スノミカ更ニ往々白雪ガ天地ヲ覆フテ空氣ヲ新鮮ニスルモノト信シラレテオル、事實、朔風膚ヲ掠ムル西比利亞ノ地ニモ良性ニ經過スル結核ノ流行地ヲ見、南部溫ナル伊太利ノ地ニモ惡性ニ經過スル結核ノ流行地ヲ認ムルソーナ、故ニ今日結核界ノ定論ハ寒暑ハ結核病ニ干與スル者ニ非ラスト信シラレテアル。

精神療法トハ精神ノ慰安ヲ計ル方法デ、結核患者ハ大概ひがみ根性ヲ持ツテ居ルカラ、種々ノ手段ヲ用ヒテ慰安ヲ與ヘネハナラヌ、デ、今日吾々ノ尤モ良策トスルノハ患者ト醫師トノ精神ノ觸接デ、醫師ノ側ヨリ申セハ自己ヲ信賴セシムル者、患者ノ側ヨリ申セハ醫師ヲ信賴スルノデアル。

冷水摩擦ハ皮膚ノ硬化、身体ノ硬化 Abhärtung ノ問題デ、吾人ノ經驗ニ徵スレハ溫浴ハ皮膚ヲ軟弱ナラシメ冷水浴ハ反テ硬化セシムル樣デアル、其他冷氣ハ体内代謝ニ影響シ、現ニ時トシテ食機ヲ促スコモ覆フベカラザル事實デアル、唯々其方法上注意スベキハ漸次小ヨリ大ニ、弱キヨリ强キニ至ラシムルコデ、漸進的ニ冷氣ヲ應用セシムルコデアル。

衣服ノ關係凡テ廣濶ヲ主トスルノデ、住居ハ凡テ衛生的ノ者ヲ宜シトスル。

体操術ハ將ニ進行セントスル結核患者ニハ禁忌デアルガ、陳慣ノ者ニハ勵行セシムルノデアル、余リ目下ノ處デハ患者ニ應用サレテ居ナイ。

（以下次號）

學會

◉金澤醫學會記事（二月十日）（文責ハ記者ニアリ）

改暦第一回ノ例回ヲ兼テ懇親會ヲ金谷舘上ニ開催ス、時ハ如月十日北陸ノ空何時ニナク晴レテ春陽ノ氣塲ニ溢レ快談笑語定刻ヲ過グル午後三時二十分、長宗我部副會長立ツテ開會ノ旨ヲ告ゲ高安會長用向ノ爲メ少時遲刻ノ由ヲ報ゼラレタリ、今左ニ其日程ノ大要ヲ錄センカナ。

○能登輪島海士町ニ於ケル脚氣病調査報告

田中正一氏
吉田宗一氏

田中氏立ツテ述ベテ曰ク、昨年秋季同地方脚氣蔓延シテ罹病者百參拾余名ニ達シ死者九名ヲ出シテ醫學會ノ一問題トナルヤ本縣ニテハ同二氏ヲ派シテ同病ノ調査ヲ命ゼラレ昨年十一月八日當地ヲ出發シ九日間ノ日數ヲ閲シテ同地ノ土地風俗生活狀態ヲ檢シ併ラ同病患者ノ診察ニ從事シテ原因及病狀等ヲ研メタリ、同島タルヤ海上ノ一孤島ニシテ海面ヲ出ヅル事最高八間何尺ノ濕地ニシテ雨天ニハ河水汎濫シテ不潔ヲ極メ島民ノ住居ハ一時的小屋懸ケニシテ夏冬ノ二期ニヨリテ其住所ヲ異ニシ冬季ハ本島ニアリテ潛水漁業ニ從ヒ衣類器具等ノ生活狀態亦大ニ趣ヲ異ニシ食物ハ米食ニシテ大酒ノ癖ヲ有シ昨年ハ惡性ノ混成酒ヲ用ヰタリト、患者ノ年齡ハ最少十五歲ニシテ最高五十五歲ニ達シ二十歲前後ニ最多數ナリトテ地圖及寫眞ヲ指示シ尙ホ同島ノ歷史ヨリ詳細ニ報告セラル、筈ナリシモ時間ノ都合上後回ニ讓リテ降壇セラレシハ甚ダ遺憾ナリキ。